

2021.6.8

岩手県水産会館5階 大会議室



第1回岩手県食品ロス削減推進協議会

～ フードバンク岩手の取組 ～

特定非営利活動法人 フードバンク岩手

事務局長 阿部 知幸

【フードバンクとは】

資料7-3

企業などから集めた食品を管理し福祉施設・団体など
”個人を支援する組織“に届けることをフードバンク活動と呼び、
直接個人へ手渡したり郵送したりする取り組みは
パントリー（食料庫・食料支援）活動と呼ばれています。



2019.5.24

【食品ロスの削減の推進に関する法律】



投票総数 221
賛成 221
反対 0



フードバンク岩手と共にSDGsを推進しましょう!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

※SDGs=持続可能な開発目標/2015年国連サミットで採択

- 1 貧困をなくそう 貧困状態にある人の割合を半減させる。
- 2 飢餓の撲滅、安全で栄養のある食料を。 全ての人々に健康な生活と福祉を。
- 3 健康と福祉
- 12 持続可能な消費と生産 食料廃棄を半減させ、食品ロスを減らす。
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう これらの推進・解決のためには効果的なパートナーシップの構築が有効と考えます。SDGsの諸課題およびフードバンク岩手の取り組みに興味をお持ちの企業様、団体様はぜひご一報ください。



【貧困をなくそう(生活困窮)】

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



【つくる責任つかう責任(食品ロス)】

持続可能な消費と生産のパターンを確保する



【パートナーシップで目標を達成しよう】

さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

【主な活動】

- (1) フードバンク事業
- (2) 食のセーフティネット事業
- (3) 社会参加事業
- (4) SOS早期発見事業
- (5) 東北6県のフードバンクネットワークの構築事業
- (6) アドボカシー

令和3年2月25日「孤独・孤立を防ぎ、不安に寄り添い、つながるための緊急フォーラム出席」
令和3年4月14日「坂本内閣府特命担当大臣へ要望書提出」

◆実施内容

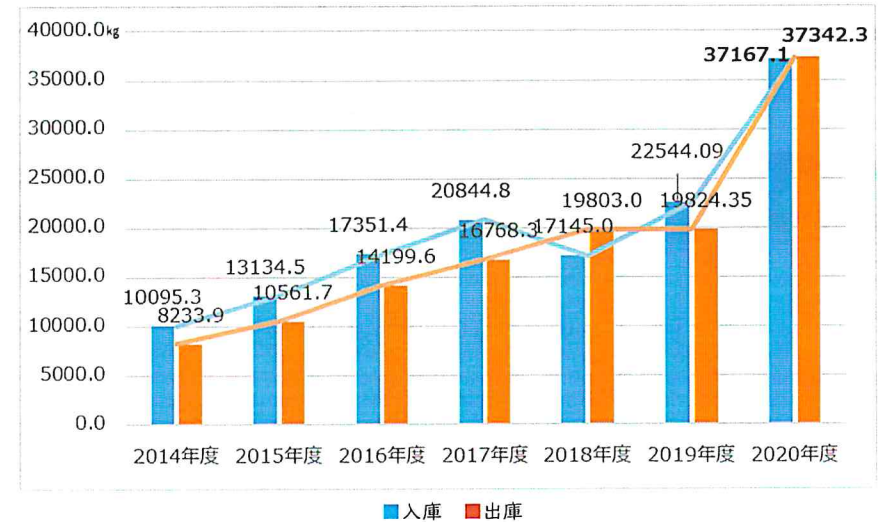
・生活自立支援法に基づく岩手県内の相談機関や役所、社会福祉協議会等22カ所（連携機関ではなく実際に食品を提供した機関等）に譲渡した。その他、相談機関や支援機関9団体（学習支援・こども食堂・被災者支援団体等）、福祉施設等7施設、フードバンク団体9団体、計47ヶ所（890件）へ提供。
・支援機関等を介した食料支援世帯は1922世帯となった。（施設等を除く）

◆食品取扱量は提供量が37167.10kg、譲渡量が37342.25kgとなった。

・災害備蓄品1398.17kg
・購入食品重量2271.44kg

◆常設フードバンクポスト設置箇所の増加22ヶ所、合計48ヶ所

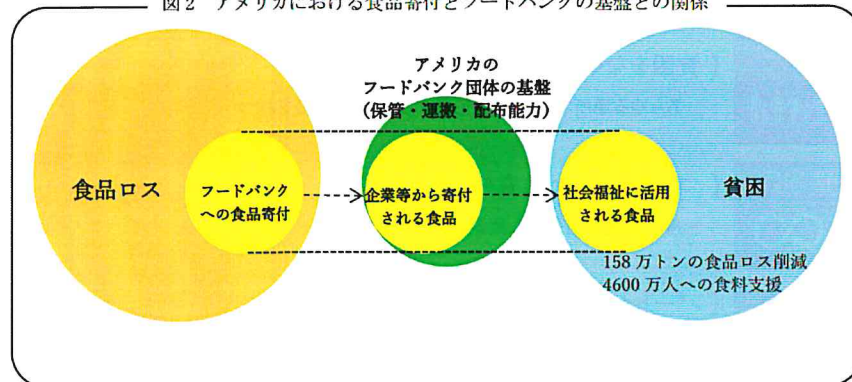
【年度別 食料品入出庫量】



【外国のフードバンク団体の基盤と食品ロスの削減量との関係性】

アメリカでは、企業等から寄付される食品の量より、フードバンク団体の基盤（食品の保管、運搬、配布能力）が上回っています。結果として158万トンの食品ロス削減、4600万人への食料支援が可能になっています。

図2 アメリカにおける食品寄付とフードバンクの基盤との関係



【日本のフードバンク団体の基盤と食品ロスの削減量との関係性】

日本国内で企業や一般家庭から寄付される食品が増えたとしても、フードバンク団体の基盤（食品の保管、運搬、配布能力）を上回る量の食品を受け入れることはできません。（図3）

図3 日本における食品寄付とフードバンクの基盤との関係

